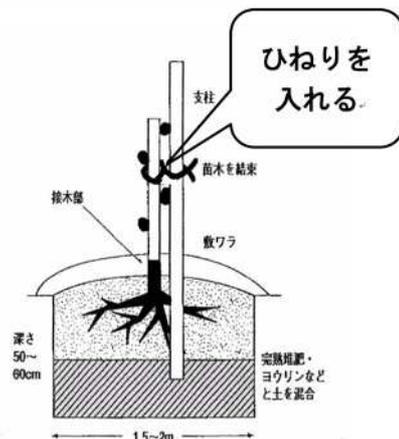


1 苗木の植付け・管理

(1) 苗木の植付け

- 苗木は、日当たりと水はけがよく、強風が直接当たらない場所を選んで植え付けましょう。
- 植付け前の苗木は、1日から2日間、水をたっぷり吸わせると、その後の成長が良いです。
- 植穴は、なるべく大きな穴を準備しましょう。
- 掘り上げた土が凍みしていないことを確認し、乾燥防止のため灌水をしっかりと行い、根と土を馴染ませて植付けしましょう。
- 根は断根しないように広げて植えましょう。折れた太い根は綺麗に切り直すと、治りやすく根も出やすくなります。
- 風で倒れないように支柱などで補助するとき、ひもに「ひねり」を加え、苗を傷めないよう結束しましょう。
- 保水と除草を兼ねて敷きワラも一緒に行いましょう。
- 植え代えを何度も行っている園地では、いや地等が発生し、苗木や幼木の生育が良くない場合もあります。植え位置の変更やバックホー等で天地返しを行い、堆肥等を十分に投入することである程度改善されます。



(2) もも苗木定植本数の目安について

- 積極的に改植や新植を行い、生産力の維持拡大に努めましょう。
- 定植位置の決定（栽植様式・距離）は、次の基準を参考にしてください。
- 基本樹形を目安にしており、園地の形、通路、外周、樹形により異なるため注意しましょう。

栽培様式	距離	本数
開心自然形	9 × 8 m	～14本 / 10 a
斜立主幹形	5～6 × 7～10 m	～28本 / 10 a
低樹高疎植栽培	10～12 × 10～12 m	～10本 / 10 a

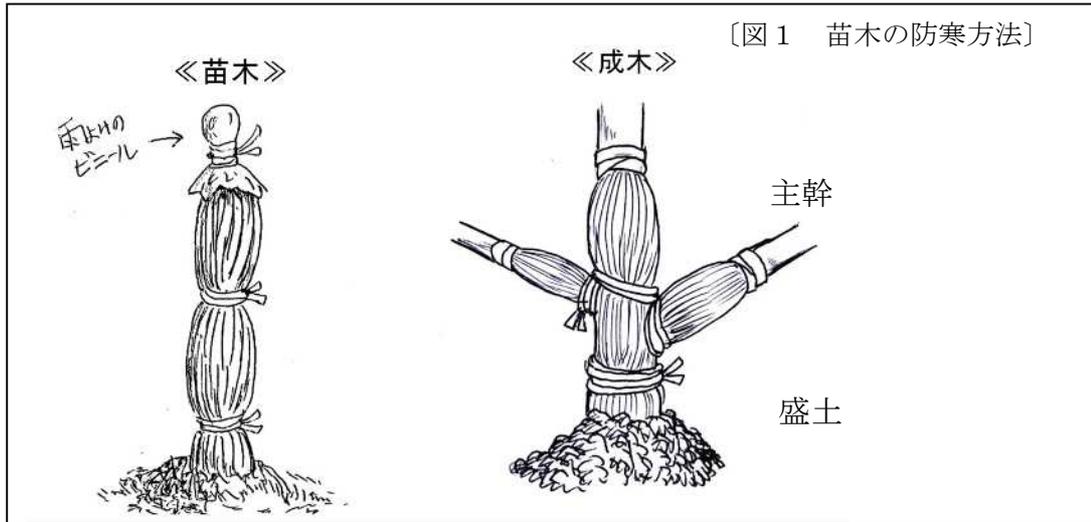
(3) 凍害防止対策の徹底

冬期の気温によっては、凍害並びに胴枯病の発生が心配されます。このため、防寒対策を徹底しましょう。若木（10年生未満）、樹勢が強いものは、特に凍害を受けやすいので、丁寧に防寒を実施しましょう。

【稲ワラによる防寒方法】

- ① 防寒対策は、最低気温が0℃を下回る11月中下旬～12月初旬に実施しましょう。
- ② 3～5年生樹は特に被害を受けやすいので防寒を徹底する。それ以降の年代の樹でも樹勢が旺盛な樹は実施します。

- ③ 主幹部を稲ワラで厚さ5 cm以上に巻きます。
- ④ 稲ワラは基部より穂先を上にして巻きます。
- ⑤ 稲ワラは濡れると防寒の効果が低下するので、シルバーポリや反射マルチ等で上部を覆います。なお、稲ワラの周りをビニールで覆うと一層日中と夜間の気温格差が生じ凍害が助長されるので、上部のみを覆いましょう。
- ⑥ 地際部は15 cm以上、盛土を行います。(接木部の上まで盛り、春に取り除く)
- ⑦ 春(4月)に稲ワラを取り除いてからは、日焼け防止も兼ねて、白塗材を塗布します。
- ⑧ 年間ワラ巻きをすると、カイガラムシ類等が寄生する事例が見られるので、注意しましょう。



- ⑨ 太い枝を切る場合は、小枝を残して切り、ゆ合促進剤を塗布します。

